

インドでの国際会議 ICOTL2023 参加

2023 年 12 月 9 日 白田由香利

ICOTL2023 というIEEEの国際会議([MITS ICOTL' 23](#))で, Shape Analysis という時系列データ分析手法に関する招待講演を行ってきました。ホスト大学は, マダナパレ工科大学(MITS)で, 会場も最後に MITS で行うことになりました。親友のバサビ・チャクラボルティ先生が計算機学部学部長をしていらっしゃいます。左の写真の着物を着ているのが白田で, サリーを着ていらっしゃるかたがバサビ学部長です。今回は, 院生 M2 の松橋氏の論文”Critical Factors in Doubling Revenue for Soccer Teams”も受かり, 2 人でインドに渡航しました。松橋氏の論文は, サッカーチームの経営分析で, 収入増加のためにはアカデミー育成などによる (スポンサー収入以外の)その他の収入が効いていることを示しました。複雑な論旨展開ですが, 上手に伝えられて, 質問も多数でて, 活発な議論ができました。



会場も最後に MITS で行うことになりました。親友のバサビ・チャクラボルティ先生が計算機学部学部長をしていらっしゃいます。左の写真の着物を着ているのが白田で, サリーを着ていらっしゃるかたがバサビ学部長です。今回は, 院生 M2 の松橋氏の論文”Critical Factors in Doubling Revenue for Soccer Teams”も受かり, 2 人でインドに渡航しました。松橋氏の論文は, サッカーチームの経営分析で, 収入増加のためにはアカデミー育成などによる (スポンサー収入以外の)その他の収入が効いていることを示しました。複雑な論旨展開ですが, 上手に伝えられて, 質問も多数でて, 活発な議論ができました。

JAL のバンガルール行の飛行機は 1 日おきにしか飛びません。しかも, 到着は深夜で

す。インドの深夜タクシーは怖いので, 超一流ホテルの Taj Bangalore に泊まり, 空港までの出迎えタクシーもお願いしました。空港の待合ゲートで, ドライバー氏が Prof Shirota というプラカード



をもっているのを見つけると、安堵します。2回目のインド バンガルールですが、インド旅行は緊張の連続です。2日目は安宿に泊まりました。インド料理は私には辛すぎるので、ホテルから UberEats のようなケータリングで中華料理を注文、松橋氏とシェアしました。ホテルの前に広がる、とうもろこし畑と牛と山羊の群れを見ながら、明日のプレゼンの予行を行っていました。MITS からの迎えの車が来ると、スイスの大学のセドリック教授と我々で、4時間かけて、MITS 近くのホテルに向かいます。山の上にあるホテル(前回も久保山教授たちと止まったホテル)に到着、3人でインド料理の夕食を済ませました。セドリック教授の家の Backyard には、レマン湖とアルプスが控えているようで、「週末はアルプスの少女ハイジができて、うらやましい」

さて、翌日、MITS の国際センターのスタッフ Madam Vijaya が迎えに来てくれました。山から下りて、大学キャンパスへ入ります。到着するなり、学長他と挨拶し、そのまま手を引かれて Opening Ceremony の会場へ向かいます。招待講演者として名前を呼ばれると、2階席の学生から大歓声が上がりました。8月に MITS MBA コースでゲスト講演したときに、インド企業についてあれこれレクチャーしたことを覚えていてくれたのです。これは非常に嬉しかったです。インドでも「白田先生は、データ分析を楽しそうに話しますね」と言われます。



インドは州によって大きく文化が異なります。MITS では、会議の成功を祈って、聖歌隊の歌が流れる中、聖なる蠟燭に点火します。下の写真は私の番で点火しているところです。写真真ん中にいらっしゃるかたが、大会委員長の Goutam Chakraborty 教授です。



私の話した Shape Analysis という手法は、だいぶ前に Oxford 大の書店に並んでいるのを見つけ、「これはどういう数学なのか!!!」と驚き、帰りの飛行機でいっきに読んだ面白い内容の数学です。リーマン距離ができて、AI で今はやりの高次元リーマン球の



概念がいち早く使われていた内容です。数学に詳しい参加者からも「それをどこで見つけたのですか？」と聞かれました。やはり、Oxfordの本屋とかでは、他にないような面白い本が見つかります。今年の7月にOxfordに行ったときも「ChatGPTに推論をさせる本はないですか？」と書店の人に尋ねて、探してもらって「無い」と言われたときには、ほっとして嬉しかったです。今、私はChatGPTに演繹推論法を使って経済数学問題を解かせているので、まだ研究されていないま



が嬉しいからです。

帰るときには、MITS国際センターの皆様から記念品のサリーのショールを頂きました。2024年3月には、Prof Sreekanthも目白に来て、短期ですが共同研究をします。インドのITサービス企業の分析です。一緒に共同研究できて、本当に嬉しいです。

さて、インドの旅行について、少し書きます。以下のきれいなホテルロビーはTaj Bangaloreのもの

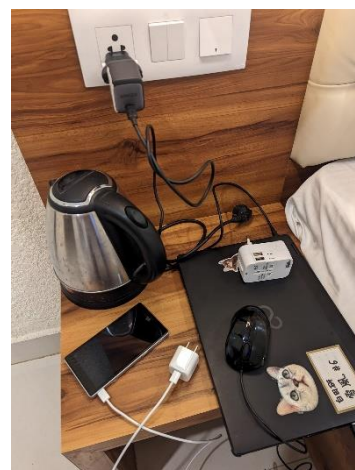


です。温度は23度くらいで、過ごしやすいです。朝食のbuffetが有名なホテルですが、体調管理の面から、迎えが来るまでとことん、眠っていました。それに食べ過ぎると長時間のドライブがきつくなりますので、とにかく食事は控えめにしておいたほうが安全です。ドライブインで食べた野菜クリームスープが辛くなくて本当においしかったのですが、半分でやめておきました。ホテルで歯を磨くとき、松橋氏は、沸かしたお湯を使ったそうですが、私は、飲み込まなければ水道水を使っています。安全にはこしたことはありませんので、皆様は水道水は避けた方がよいでしょう。食事も、カレーなどを盛んに勧められますが、「喉がいたくなると、明日のレクチャーに影響するので」とお断りして、いつもスパイス無しのタンドリチキンやサラダ、ゆで卵を頂いています。マダナパレはトマトの大産地なので、トマトス

ープは必ず頂きます。

外国旅行で大事なことは充電とWiFiです。次のページの写真はホテルの電源から充電しているようです。変換器も形状によって、うまくさらない場合もあるので(手でずっと抑えているわけにもいきません)、2種類はもっていきます。PCと携帯、WiFiルータを充電します。WiFiは、コロナ明け

からはNTTドコモの ahamo を使っています。飛行機が着陸して電波OKとなった直後に、携帯電話のスイッチを入れて、google map が動くのを待ちます。座席のシートベルトは着用のままの状況です。万が一、電波が受けられない場合は、Glocal Me をONにして、クラウド SIM に頼ります。インドは通信が途切れる等、起こりますので、最低SIMも2種類は用意していかないと安心できません。今回のように見知った大学に行く場合はいいですが、一人旅の場合、WiFi 命です。お金についてです。日本でインド ルピーが買えなかったのが、ドルを少しもっていきました。ドライバーさんへのチップもドルで渡しました。あとはカードで済むだろうと、私は両替をしませんでした。それに対して、松橋氏は Taj のホテルできちんとインド ルピーを両替して



いました。はたして、2 日目のタクシー運転手さん、USDは受け取らなくて、松橋氏のルピーで支払いました。あとで松橋さんにはUSDで返しました。お土産の紅茶を買ったときもカードが使えず、USDも使えず、一緒にいった MITS の人に払ってもらい、あとから、バサビ先生経由で支払いました。カードが使えないのは困ります。空港で帰りの飛行機を待っている時間が 5 時間くらいあり、カード支払いもできるので、バーガー&カフェの店で、いろいろな飲み物や軽食をゆっくり選んで楽しみました。今回のインドも、元気に無事に帰ることができ本当によかったです。

以上